

キューバ、コロナウイルス感染拡大経過報告記 (2)

2020年4月10日～5月15日

前回の拙稿は、キューバのコロナウイルス対策事情が、日本ではどのマスコミでもほとんどまとまった形で報道されない中で、興味をもって読んでいただいた方も、少なからずあったようです。筆者の執筆の目的は、キューバの COVID-19 対策が、万全で理想的、あるいは他国が見習うべきものと描くものではありません。この世紀のパンデミックに対しては、各国で歴史的に作られた医療体制のもとで、時には政治的な価値観も交じりながら、困難と闘いながら対策が進められています。人口 1,120 万人で、発展途上国の小国のキューバでも、この未知の新型ウイルスを押さえ込み、人命を守るために、いろいろな知恵を出しながら対策が取られています。以下、その内容を紹介しましょう。

高熱、風邪の症状が出たらどうするか

まず、キューバでは、コロナウイルスに関して、健康に異常が見られた場合、地域のファミリー・ドクターのところに相談に行きます。家族医は、公共保健省 (MINSAP) の手引書にしたがい、患者の体温、血圧、脈拍などを測定して診断し、38 度以上の高熱、呼吸に問題があれば、上級の診療所に患者を送ります。その診療所では、レントゲン、超音波診断装置などで診断を行い、コロナ感染の疑いがあれば、



MINSAP 指定の医療施設に紹介されます。これらの医療施設では、世界保健機関 (WHO) 及びアメリカ疾病予防管理センター (CDC) の規定に従って、CT (コンピュータ断層撮影) などのより高度の医療機械によって呼吸器関係を診察するとともに、感染者との接触がなかったか、感染地域から帰ってこなかったなど調査し、感染者と接触した人、医療機械診断で PCR 検査と必要とする人、



ともかく経過観察を必要とする人を振り分け、全国の 20 の病院、54 の感染疑惑患者センター、248 の濃厚接触者センター、40 の外国人用センターに隔離入院させます。PCR 検査を行い、陽性の場合そのまま入院を続け、治療を受け

ます。現在のところ全国で 5,000 床準備されています。重篤な感染者は、集中治療室で人工呼吸器を使って治療を受けます。陰性の場合、退院しますが、自宅監察者として自宅で 2 週間隔離され、ファミリー・ドクターによる日常的な診察を受けます。呼吸障害があり、政府が指定した重度の感染国から帰国した人、あるいは感染者と接触した人は、感染容疑者として 2 週間の経過観察を受けます。

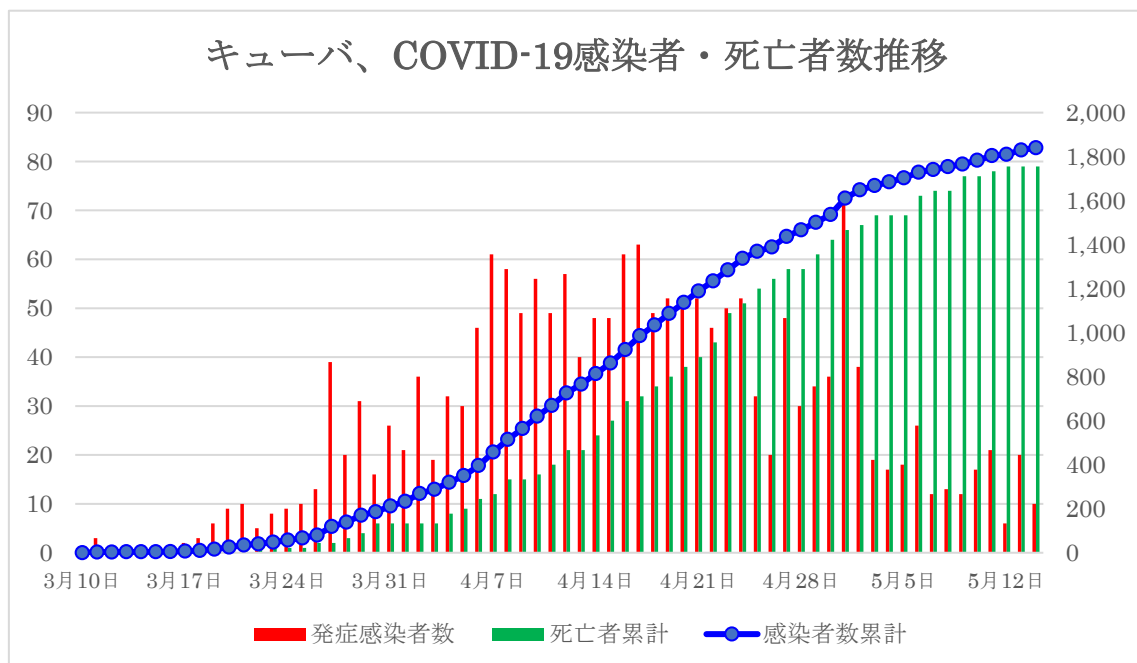
こうした一連の検査、治療は、憲法第72条で医療は無料と定められており（憲法第73条で教育も無料）、政府も、異常が見られたら、すぐさまファミリー・ドクターと相談するようにとコロナ対策の重要な一つとして繰り返し指摘しています。施設の医療使用への転換に際しても、補償などの経済問題は生じていません。学生の授業料削減などの問題も起きてはいません。

感染拡大の3段階でキューバは現在第2段階

政府は、コロナウイルス感染拡大について、報告記（1）で記しましたように、キューバでは、3段階に設定された感染状況に応じた対策が立てられています。

その3段階とは、**第1段階**：感染国からキューバに到着した人の感染、あるいはこの人との濃厚接触による感染。**第2段階**：限定的な国内感染。感染国からの訪問者との直接の関係が確定されない例。国内の一地域の小グループ、特定の機関、センターに限定される。**第3段階**：流行病となる。感染経路不明者が国内各地で見られる。パンデミック曲線で頂点が現れる、と設定されています。4月6日、キューバは、「限定的な地域感染の段階、第2段階に入った」と宣言しました。果たして、その後キューバの感染拡大はどのようになっているのでしょうか。グラフ（1）をみてください。

グラフ（1）COVID-19感染者・死亡者数推移



註：左軸；発症感染者数、累積死亡者数

右軸；累積感染者数

出所：キューバ公共保健省発表の資料から、筆者作成

	感染者数累計	発症感染者数	死亡者累計	死亡者
3月10日	0	0	0	0
3月11日	3	3	0	0
3月12日	3	0	0	0
3月13日	4	1	0	0
3月14日	4	0	0	0
3月15日	4	0	0	0
3月16日	5	1	0	0
3月17日	7	2	0	0
3月18日	10	3	1	1
3月19日	16	6	1	0
3月20日	25	9	1	0
3月21日	35	10	1	0
3月22日	40	5	1	0
3月23日	48	8	1	0
3月24日	57	9	1	0
3月25日	67	10	1	0
3月26日	80	13	2	1
3月27日	119	39	2	0
3月28日	139	20	3	1
3月29日	170	31	4	1
3月30日	186	16	6	2
3月31日	212	26	6	0
4月1日	233	21	6	0
4月2日	269	36	6	0
4月3日	288	19	6	0
4月4日	320	32	8	2
4月5日	350	30	9	1
4月6日	396	46	11	2
4月7日	457	61	12	1
4月8日	515	58	15	3
4月9日	564	49	15	0
4月10日	620	56	16	1
4月11日	669	49	18	2
4月12日	726	57	21	3
4月13日	766	40	21	0
4月14日	814	48	24	3
4月15日	862	48	27	3
4月16日	923	61	31	4
4月17日	986	63	32	1
4月18日	1,035	49	34	2
4月19日	1,087	52	36	2
4月20日	1,137	50	38	2
4月21日	1,189	52	40	2
4月22日	1,235	46	43	3
4月23日	1,285	50	49	6
4月24日	1,337	52	51	2
4月25日	1,369	32	54	3
4月26日	1,389	20	56	2
4月27日	1,437	48	58	2
4月28日	1,467	30	58	0
4月29日	1,501	34	61	3
4月30日	1,537	36	64	3
5月1日	1,611	74	66	2
5月2日	1,649	38	67	1
5月3日	1,668	19	69	2
5月4日	1,685	17	69	0
5月5日	1,703	18	69	0
5月6日	1,729	26	73	4
5月7日	1,741	12	74	1
5月8日	1,754	13	74	0
5月9日	1,766	12	77	3
5月10日	1,783	17	77	0
5月11日	1,804	21	78	1
5月12日	1,810	6	79	1
5月13日	1,830	20	79	0
5月14日	1,840	10	79	0

キューバは、4月の6日頃、第2段階に入ってから、連日50人前後感染者が発生しており、感染者累計数が396人（人口10万人当たり3.6人）から、5月1日には1,611人（人口10万人当たり14.4人）に、累積死亡者数は11人から66人に、右肩上がりの増加となりました。8

日感染者が、前日の 61 人に引き続き、58 人出て、ポルタル公共保健相は、キューバは、このままでは短期間で第 3 の段階の流行病の段階に入る危険性が高いと警告し、市民が責任と規律をもって行動するように呼びかける。ディアス=カネル大統領も、「より困難な状況に近づきつつある」と認めました。市民の配給に対する不満も低くなく、街頭には軍隊も繰り出し、警戒にあたるようになりました。

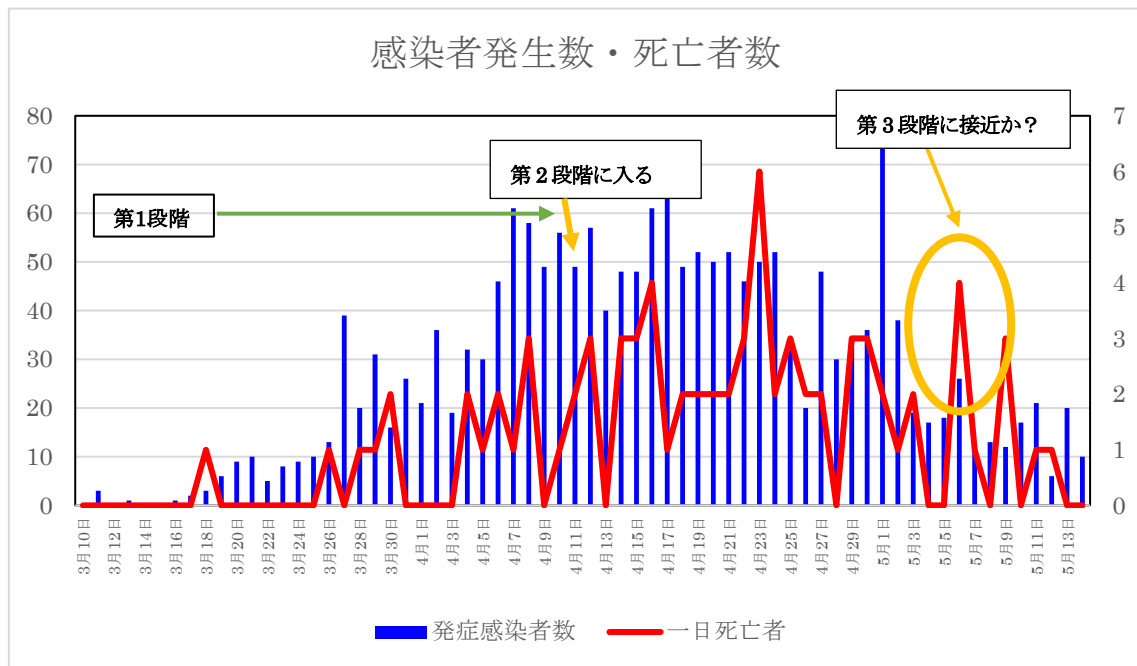


定例の午後の政府関係閣僚会議

無症状感染者、感染経路不明の患者の数値

が高くなり、感染率は 3 月 28 日に人口 10 万人あたり 1.24 人でしたが、10 日には、5.4 人に急増し、第三段階に差し掛かっている印象もでてきました。（グラフ 2 参照）

（グラフ 2 感染者発生数・死亡者数）



感染のピークは5月の最初の15日間？

8 日、ラウル・ギノバル・ディアス、ハバナ大学数学・コンピューター学部長は、実効再生産数を推定し、感染のピークは感染後 60~70 日程度の5月の最初の 15 日間に起きると推計しました。それによれば、5 月半ば、感染者数 4,400 人、死者 200 人に達するというものです。計算の基礎は、キューバでのコロナ感染開

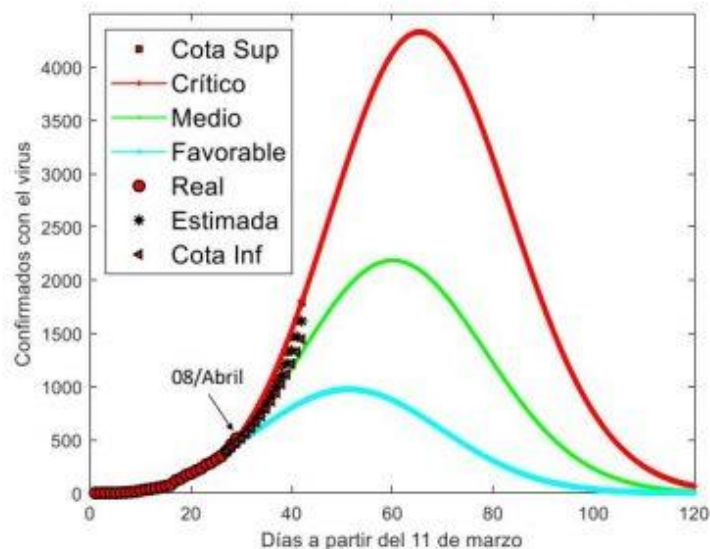


ディアス、ハバナ大学教授

始時（3月11日）は、基本再生産数は、5人であったが、その後対策が取られて有効再生産数は、1強となったというものです*。

*WTO は、今回のコロナ基本再生産数 1.4~2.5 と見ています。実効再生産数は、手洗いやうがい、人々の接触削減といった対策が取られた結果、減少した実際の再生産数です。参考までに東京都の実効再生産数は、3月下旬 1.7、4月10日 0.53 と見られています。

次の図は、ディアス教授のグラフですが、赤の曲線は危険、緑の曲線は中間、青の曲線は希望値です。縦軸は感染者数、横軸は3月11日からの日数です。■は、最高値、赤○は現実の数字、黒星*点は推計、◀は最低値です。



コロナウイルス緊急対策の第5弾発表

こうした危機的な状況に対して、感染ピークを緩和するため、8日コロナウイルス緊急対策の第5弾として、次の措置が決定されました。

- 飲食店での酒類の消費の停止。ただし持ち帰りは引き続き許可。
- 飲食店では、密集を避けるためサロンのサービスを止め、食料はテイクアウトのみとする
- 都市の乗客輸送も、ソーシャル・ディスタンスを考え、乗客数を制限する
- 電気、水道、ガス料金の集金を、オンライン支払を除き延期する。
- 食料生産などの国の経済活動に大きく影響するものは維持しつつ、勤務活動も必要不可欠なものに留めるよう点検する
- レストラン、カフェテリアの営業を停止する。テイクアウトか、夜8時までの時間内の配達のみ限定する

- 人びとの生活を危険に貶める不法な行動、行為は厳重に取り締まる。
- 4月11日から都市交通を停止する。国営、民間のバス、乗用車、ビシ（自転車）タクシーを含む

この措置は、飲食業の多くが自営業者により運営されているため、自営業者に少なからずの影響を与えるものでした。

また、国内商業省は、販売サービスを次のように再編成すると発表しました。

- 4月10日から一時的に大型スーパーの営業を停止する。国営の小規模販売店で販売を行う。
- 2日前倒しで配給を実施。生活必需品23品目を配給制にする。全国12,767の配給所を通じ380万所帯に配給される。
- 衛生用品は、全国168の基礎行政区のうち84の基礎行政区が4月9日までに洗濯石鹼、洗顔石鹼を受け取った。歯磨き粉および洗濯石鹼液は、3カ月以内に受け取る予定。
- 消毒液は、該当地域の流行病の流行にしたがって配給する。
- 飲食店は、50%の収容減となるが、テイクアウトは8時までとする。
- 観光向けであった物資、卵、缶詰の肉、酢を国営の外貨自由販売店で販売する。
- すべての国営販売店で食料品、衛生用品の販売するように改編する。そのことにより販売を分散化する。
- すべてのレジで、すべての商品の支払いを行えるようにする。
- 国営商店ですべての商品の販売ということは止め、食料、衛生用品、清掃用品を販売するようにする。衣類、履物など必需品とみなされないものは、この段階では販売されない。
- 国営販売チェーンが少ないところは、食料品、衛生用品を移動販売も行うようにする。
- 現在試験的に行っている、職場での販売方法を検討し拡大する。
- 電気製品を販売している13のネット販売店では、製品の種類と数量を制限する。ハバナではこのネット販売店を7店舗にしぼり開店し、その他の件に拡大するか検討する。
- 4月17日～30日までネット販売店の購買、及びキューバ郵便による自宅配達への購買に10%のボーナスを与える。
- 24時間営業のカフェテリアは、12時間営業とする。
- 美容院（多くは民間）は、衛生的な条件が維持される店舗のみ許可される。事態が悪化すれば閉鎖することもできる。
- 宿泊施設（民泊も含め）は、営業を停止する。現在隔離施設として使用されているところは、その後消毒作業を行い、閉鎖される。
- 風評が流行しないようにする。

以上、密集を避け、自宅にいるようにするための考えられる政策すべてが導入されました。

4月13日のMINSAPの定例発表では、概要「新たな感染者人が40人発生、感染者累計766人。隔離治療者2,501人、うち感染容疑者1,669人。自宅監察者が7,167人、PCR検査、昨日1,634件、累計18,864件(陽性率4.0%)。感染経路不明者17人。致死率2.7%。ハバナ市での感染がひどく、ベダード、アコスタ、サン・アグスティンの3地区が隔離地区となった。また、MINSAPは、米国の経済封鎖の中でコロナ対策の資材・人材を確保するよう努力している。PCR検査を補うものとして、今日から政府は、新型コロナウイルス抗体検査(迅速検査)の治験を開始した*」と発表されました。同時に、MINSAPは、感染がより拡大することに備えて、PCR検査キット、抗体検査資材の購入を増やすよう努力しているが、米国の経済制裁により、困難をきたしていると報告しました(20.04.15 Cubadebate)。

*抗原検査は、キューバは、5月15日現在行っていません。

毎日の定例記者会見でコロナ発生状況が詳細に発表される

こうしたMINSAPの前日の感染状況の発表は、毎朝10時頃外務省の記者会見室で、MINSAPの流行病局理事のフランシスコ・ドゥラン・ガルシア博士により、40分程度行われます。発表では、新感染者数(匿名で全員の年齢、症状、居住地、現在の症状など詳細なデータを発表)、累積感染者数、死亡者数とその経緯(氏名以外の詳細なデータ)、致死率、隔離治療者数、重症、重篤患者数(氏名以外の個人的データも)、感染容疑者



ドゥラン・ガルシア博士の記者会見

数、PCR検査数、陽性率、退院者数、自宅監察者数、感染経路別詳細、無症状感染者数、感染者の性別・年齢別詳細、世界及びラテンアメリカの感染概況が報告されます。また質疑応答では、CNN、AP、BBCなどの外国通信社も厳しい質問を行います。そしてこの記者会見の内容は、TVで放送されるとともに、全国紙のグランマ紙やCubadebateなどのウェブサイトでも詳細に報道されます。政府の政策を厳しく批判する反政府系のウェブサイトでも、この報道が作られた情報という批判は見られません。

また、連日午後には、ディアス＝カネル大統領、マレーロ首相、ポルタル公共保健省などの関係閣僚が、閣僚会議、専門家会議など3～4の会議を行い、感染状況の掌握と分析、その対策など検討します。その概要もグランマ紙やCubadebateで報道されます。この日は、食料品などの自宅配達を、キューバ郵便、Transcimexで開始したことが報告されました。また、キューバ政府は、コロナ感染の一層の拡大に対処するため、PCRテスト資材、抗体テスト資材の輸入に努力しているが、米国の経済封鎖の妨害にあっていることが報告されました。

米国、キューバへの人工呼吸器の販売を禁止

こうしたキューバのコロナ対策にとって困難な時機に、10日、米国の Vyaire Medical Inc 社が、これまでキューバの国営商社 MEDICUBA に人工呼吸器を販売してきた米国の IMT Medial AG 社及び Acutronic 社を買収しましたが、経済制裁により、Vyaire Medical Inc 社は、キューバへの販売を停止すると発表しました。現在の対キューバ経済封鎖の基本となっているヘルムズ=バートン法は、医療機器と食料のキューバへの販売を許可



キューバの人工呼吸器治療、珍しい写真です。

することになっていますが、同社は、トランプ政権の経済制裁措置に屈した感じです。確かに、MEDICUBA 社は、2018年から2019年にかけて、米国の57社に見積もりを依頼しましたが、50社は無回答、3社は経済封鎖に抵触するので輸出できないという回答を受けていました（Informe de Cuba sobre la Resolución 73/8 de la Asamblea General de las Naciones Unidas, 2019）。また、13日中国のアリババ社が、ラテンアメリカ諸国を始め世界の各国に医薬品、人工呼吸器を寄付しましたが、米国の運輸会社が、経済封鎖に抵触するとしてキューバへの輸送を拒否するという事件が発生しました。こうした事態は、トランプ政権のもとで、キューバ経済制裁が一層強化されたことから生じたもので、国際社会から様々な批判を浴びています。

キューバ、各国の要請に応じて治療団派遣

一方で、11日、キューバ政府は、アフリカのトーゴ共和国に11人のコロナ対策医師団を12日には、イタリアに第2陣医療団38名（医師21人、看護師16人、ロジ担当1人）を派遣しました。さらに20日には、ホンジュラスにキューバの医療団20人の派遣、カタールにヘンリー・リーブス医師団200人余が出発し、20か国に500人のキューバ人医師が派遣される予定でした。しかし、この時、ニューズウィーク誌は、米國務省の高官の情報として、キューバ



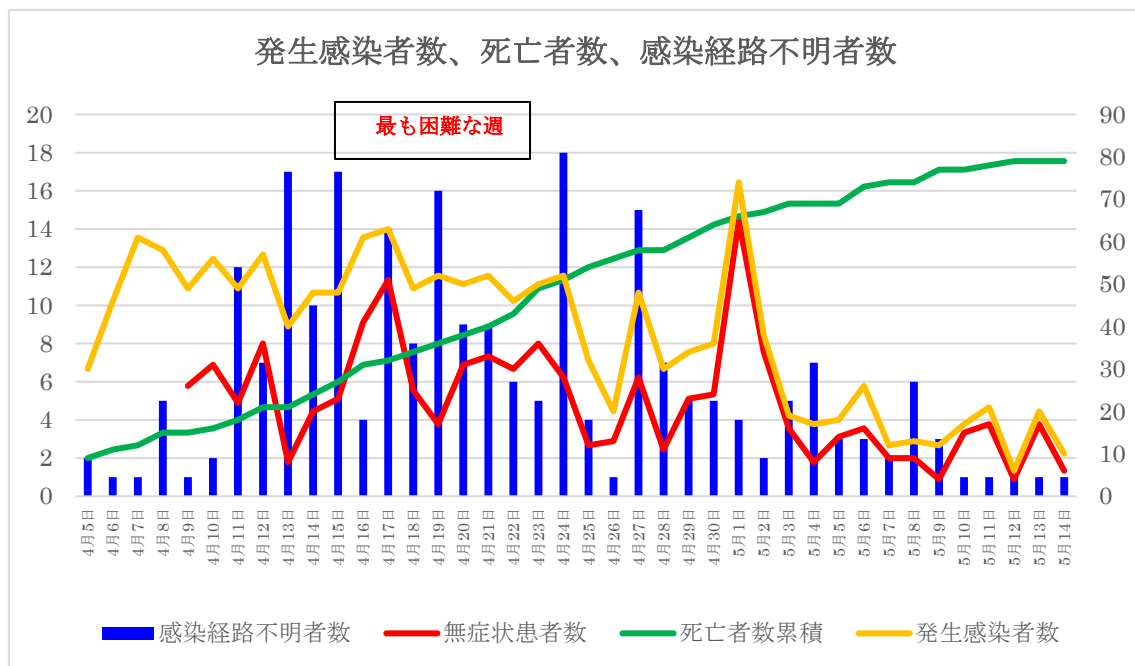
が、ベネズエラと協力して麻薬取引を行っている」と報道しました。この麻薬取引疑惑は、2015年3月オバマ政権との国交正常化交渉で一端否定されましたが、2018年5月トランプ政権が再び持ち出した経緯があります。今回は、さらにカート・ティッド米南方軍司令官もこのフェイク・

ニュースに加わりました。キューバのロドリゲス外相は、「米国務省自身が作成した『麻薬取引取締り国際戦略報告 2020』において『キューバは、麻薬の重要な消費国でも、生産国でも、違法な麻薬輸送地点でもない』と認めているのではないかと反論しました。国務省の情報操作は、キューバ医療協力活動の評価を国際的に低めようとする意図が明白でしたし、ティッド司令官の言及は、コロナ問題の混乱に乗じて、ベネズエラを攻撃する目的ももっていました。

感染者発生者数急増し、困難な週となる

11日には、青年の島でクラスター感染が発生し、2街区が封鎖地域と指定されました。8件目の地域集団感染、クラスター感染でした。政府は、ハバナ市の全街路で、コロナ感染対策用に、クロロ液消毒薬（クロロキシレノール）を散布しました。12日には、クラスター感染が発生したトリグアノ、リンピオ・グランデス、フロレンシアの3地区を隔離地区と指定し、隔離地区は11地区となりました。また、感染者の発生数、感染経路不明の感染者数、死亡者数が13日から急速に増加しました。（グラフ3参照）。

（グラフ3 発生感染者数、死亡者数、感染経路不明者数）



註：左軸；感染経路不明者数

右軸；無症状患者数、死亡者累積数、発生感染数

出所：キューバ MINSAP 発表数より筆者作成

13日の感染状況を MINSAP は、次のように報道しました。「新たな感染者 48 人発生、累計感染者 814 人。死亡者 3 人、累計 24 人死亡。感染者中 622 人安定、退院 19 人、退院者累計 151 人。感染者中 8 人危機的、7 人重篤。隔離者 2,466 人。6,572 人自宅監察者。PCR 検査、昨日 1,684 件、うち 48 人陽性、これまで 20,451 件の PCR 検査を実施(陽性率 3.9%)。陽性者キューバ 775 人、外国人 39 人。新感染者 38 人、既往の感染者あるいは感染容疑者と接触、10 人感染経路不明。致死率 2.9%」。またこの日には、ハバナ市で Vedado, Acosta y San Agustín 地区隔離地域となりました。ディアス＝カネル大統領は、4



ハバナ市の集中治療室

月 18 日「このパンデミアがキューバに発生して以降、最も困難な週であった」と振り返りました。ポルトガル公共保健相は、「現在のわれわれのワクチンは、隔離、マスク着用の義務、手洗いによる個人の保護である。まだ、多くの人が街頭に出ている。買い物の行列ではない。多くのキューバ人が何事も起きてないかのようだ。各自の責任が重要である」と厳しい実情を指摘しました。

コロナ対策第 6 弾発表

翌 14 日、労働・社会保障省は、これまで、国営企業に関して、コロナ対策第 6 弾として、労働、賃金、社会福祉分野で導入した 20 の措置について、次のような詳細な説明を発表しました。

- **リモート労働、テレワーク**：昨年 9 月から電力事情により労働法で認められた新しい方法。出勤の必要がなく、遅刻、欠席もなく生産的。昨年から行われたものは成果がでている。1 月までに 5,509 人に適用。2 月に 68,000 人、現在は、557,548 人に適用。賃金の 100%、昼食代も支給する。企業の管理部は、各部署でこれを可能な限り増やすようにと指示。
- **高齢者、持病をもつ弱者の労働者擁護**：最初の 1 カ月 100%、2 カ月目から 60%の賃金を受け取る。現在 42,382 人に適用。医師の証明書の提出不要。
- **学校の授業が中止され、影響をうける父母**（自宅にいる必要となる）：最初の 1 カ月 100%、2 カ月目から基本賃金の 60%の賃金を支給。現在 62,386 人に適用。保育園が開いても医療関係、銀行、商業関係の労働者は、母親が保育園に預けない場合、この措置を適用する。これは国営の保育園だけでなく、民営の保育園*にも適用する。現在家庭に従事している、7,126 人が 100%の賃金を受け取っている。

*キューバは、学校はすべて国営ですが、保育園は自営業者が開設している有料のものも少なからずあります。

- **勤務先が閉鎖され、仕事が中断している労働者**：53,573 人おり、配転をするよう指示が出されている。配転された場合、配転先の職責に相当する賃金を受け取る。
- **社会扶助**：困窮家族のために 4,649 人のソーシャル・ワーカーが働いている。病気や仕事の中断のために影響を受けた労働者への賃金の保護措置。14 日現在 91%の困窮家族を訪問。高齢者家族の 90%は、ソーシャル・ワーカーの訪問を受けている。
- **自営業者**：一部は、仕事を継続するために調整を行っている。しかしながら、自営業者は、手続きなしでライセンスを維持しながら、業務を中止する選択がある。自営業者の一部は社会保障をまた、特にその従業員に対して社会保障を要請している。その支援を受けるためには、自営業者は、基礎行政区の労働事務所に行き、申請すること。また直接国営企業に行き、仕事を申請することもできる。
- **季節契約労働者**（一年の一定期間勤務、観光関係に多い）：無期限の期間あるいは期限付きで時間契約をしている労働者は、現在の事情から仕事が中断しているので、労働保護は維持される。
- こうした対策のために、予算の修正が進んでいる。

《補論》 キューバでは、自営業者の 33%（約 21.1 万人）が、コロナによる営業停止措置で大きな影響を受けています。また、自営業で雇用されている 139,000 人の従業員も、不安定な状況になっています（AFP, may15, 2020）。しかし、コロナ問題から営業活動を制限された飲食業、タクシー運転手、民泊業などの自営業者への休業補償の問題は現在のところ出ていません。一つは、生活基礎物資は、補助金で補填された配給制で、廉価で国民全員が取得し、ともかく半月は保証されていること、光熱費が補助金で異常に低価であること、医療・教育が基本的に無料であること、コロナ問題の間、自営業のライセンスを維持したまま国営企業で働けることから、資本主義国のような大きな生活のリスクに見舞われていないからです。しかし、筆者は、民間部門の労働者がすでに全労働者の 3分の 1 を占め、飲食業、交通、民泊業などで自営業者が重要な位置を占めており、ポストコロナの経済の回復を考えた場合、休業に追いやられた自営業者は、平均賃金の 60%程度の補償があっても良いのではないかと考えています。

この日、14 日クラスター感染が全国で 20 カ所に増加し、政府の、感染対策は一層強化され、街頭でマスクを付けていないと警官に注意され、ハバナ市のアラマル、ラウトン、アバナ・ビエハで警官と小競り合いが起きました。WHO は、キューバのコロナ対策の努力を認めつつも、食料



ハバナ市内の食料の買い物の列

の買い物の行列を調整するようキューバ政府に勧告しました。コロナ感染開始前に、「キューバ、コロナウイルス感染拡大経過報告記(1)」で報告したように、モノ不足が目立っていましたが、政府は、コロナ対策で飲食業の店内サービス禁止、大型スーパーの閉店などを行い、基礎生活物資の販売の統制を強化した結果、販売店、配給所で長い列ができるようになりました。この点をWHOは整理するよう警告したのです。

政府は、「モノ不足で行列ができるのは致し方がないが、社会的ディスタンス」を維持して、整然と行列に並ぼうと繰り返し呼びかけましたが、中々守られていません。

キューバ人は、もともと買い物の行列を厳格に守る人々です。しかし、モノ不足の状況の中で、転売のために買うもの、順番待ちのチケットを売るものなど、心無い人々がいるのも現状で、



整然とした社会的ディスタンスを守る行

水不足で給水タンク車を待つ人々、ハバナ市ラウトン

列となるのは困難があります。警察は、マスクを付けず公共の場に出ると300キューバ・ペソの罰金を科すようになりました。15日、ヒル経済・企画相、配給の食料と衛生用品は、5月分は4月分と同じ量が確保されていると発表しました。この日実効再生産数は、4月7日の1.3から下がり、1を記録しました。

コロナ対策第7弾発表

16日、コロナ対策第7弾として、キューバ政府は、運輸関係で14日に続いて次のような新たな措置を発表しました。

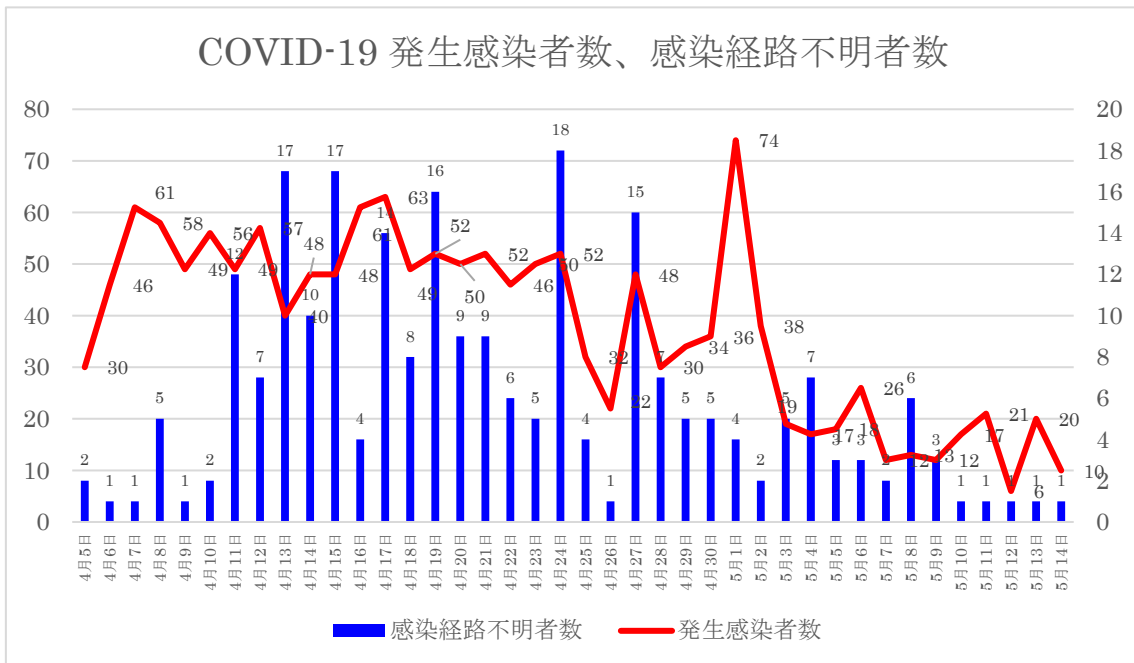
- 停留所での公用車のピックアップを禁止し、労働者用の車両にする。バスを利用する。管理用の乗用車は廃止する。
- 貨物自動車での人員の輸送を禁止する
- 自営業タクシー運転手は、ライセンスを停止し、納税義務を免除される。コロナが収束すれば、ライセンスは復活する。
- 食料の輸送を保障する。
- 公共交通の中でマスクの着用を義務付ける
- 自家用車の走行は禁止していないが、公共タクシー、自家用タクシーの走行は禁止。
- 隔離地域以外は、自家用車は走行することはできる。
- 公用車は、特別の許可証なしで走行できるが、できるだけ不要な箇所を訪問しないということを念頭においておくこと。
- 血液透析を必要とする患者や重症な患者の搬送は、病院付属のタクシーを使用する。
- 血液透析の場合は、CUBATAXIを利用する。出産の場合もあらかじめ決めておいた

タクシーを利用する。

- 医師や必要不可欠の人員の搬送は、運輸省は確保している。

16日、新たな感染者61人が発生、累計923人、死亡者も4人でした。陽性率3.9%、感染経路不明者は前日17人を記録し、感染者数が2倍になる日数が8日となり、政府の緊張は高まりました（グラフ1、4参照）

（グラフ4 発生感染者数、感染経路不明者数）



註：左軸；発生感染者数

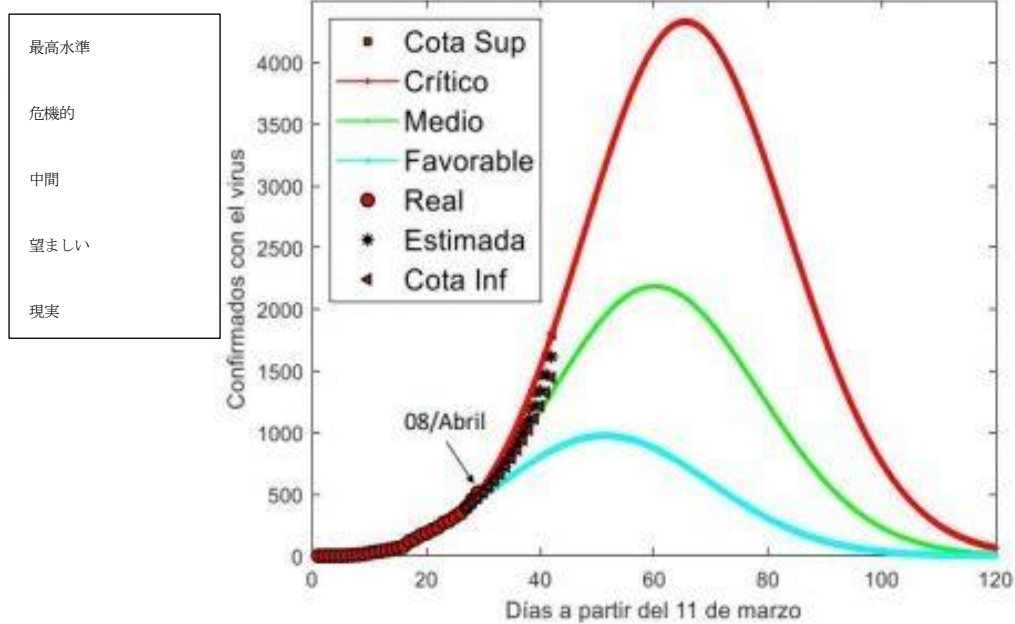
右軸；感染経路不明者数

出所：キューバ MINSAP 発表数より筆者作成

ポルタル公共保健相は、「キューバの重篤患者の動向は他国と異なる。感染者のうち 9.1%は重篤患者、4.6%は危機的患者と報告されており。大変難しい状況となっている。これ以上の悪化をさげなければならない。入院患者はすべて PCR 検査をおこなう。状況の分析から、今後危機的な状況に至りうると考えられるので、油断してはならない」と警告しました。

数理分析から感染状況の厳しさを指摘

この日 16 日、ラウル・ギノバル・ディアス、ハバナ大学数学・コンピューター学部長の数理予測が発表されました。



ディアス教授は、「現在まで、キューバは、第二の中間水準（緑線）から第一の危機的水準（赤線）の下に移行しているところ。このままでは、想定が示しているような次の危機的段階（赤線）に移行することを疑わないというわけにはいかない。全国ではなくても、県によっては、次の危機的段階に進展すると判断できる」と困難な状況にあることを報告しました。

政府は、「感染経路不明感染者が累計で 81 人に増えたこと、また先週は感染者の 48.9%が無症状者であったことから、極めて危険な状況にある。クラスター感染が 27 件に達し、26 件は感染が続いており、1 件が収束しただけである。しかし、ハバナ市では、依然として不要に外出しているものがある。自己責任感が必要である。キューバの経済状況から買い物行列は継続して必要だが、無秩序に並んだり、社会的距離を無視する理由はない。政府は、市民に食料を引き続き供給するために大きな努力を払っている」と発表しました。

政府は、「抗体検査は、すでに 5 万回に達している。そのうち、0.4%が陽性。オンライン診療もケイタイで行なわれてる。医療制度も、必要なベッドを作りながら、段階を踏んで準備している。同時に重症感染者のためにホテルを利用できるように、また軽症感染者のためのセンターも整備している。現在、この段階のために準備していた集中治療ベッドの 18%を使用している。残りは予備のベッドである」と発表しました。

ところが、痛ましいことに、医療関係の 92 人の勤務者（医師 47 人、看護師 30 人、技師 4 人、その他の医療関係者 11 人）、5 人の医学生、5 人の協力者がコロナウイルスに感染。ベネズエラで以前から医療活動を行っている医師 5 人が感染しました。キューバでは、毎日 300 万人以上が訪問監察を受けています。4 月 17 日には、3,605,000 人（高齢者 800,632 人、一人暮らし

老人 10 万人以上) が訪問監察を受けました。この訪問監察は、予防医学的観点から行われており、全国民がコロナウイルス対策の対象となっているのです。

ディアス＝カネル大統領は、定例の政府幹部会議で、「集中治療の能力の増強が必要である。密集を、買い物の行列で避ける必要がある。市民へのサービスを行う部署が粗雑に作業を行ってはならない」と注意しました。また、ポルタル公共保健相は、「感染者が増えているのに十分な措置をとらなければ医療崩壊が起きる。これこそわれわれが避けなければならないことである」と、医療部門が緊張関係にあることを指摘しました。

17日になると、新たな感染者人がさらに増加し、63人が発生し、累計 986 人となりました。この日から情報科学大学 (UCI) が、高等教育省及び通信省と協力して無料ネットで感染の自己調査制度を導入しました。これはあくまで訪問調査を補完するものです。しかし、22 日まで 10 万件近くが報告されましたが、587 件の偽報告あり、政府は、偽報告者を厳罰に処すと発表しました。

この日、キューバ共産党政治局会議が開催され、ラウル・カストロ第一書記が出席し、コロナ感染の現状と対策、経済への影響を検討しました。

海外からは、中国の企業、ユートン社から陰圧救急車 5 台が寄付されたこと、ベトナムから米 5000 トン支援を受けたことが報告されました。

困難な週を乗り切る

18 日、ディアス＝カネル大統領は、「目標は、この病気を根絶し、高い致死率を失くし、われわれが免疫をもつことである。残念ながら金曜日に 1 名のキューバ人が亡くなった。今週は間違いなく困難な週であった。このパンデミアがキューバに発生して以来、最も困難な週であった。この 5 日間毎日死亡者が出て、14 人に達した。皆さんは、責任を持って行動し、指示に従って行動し、団結して行動してほしい。われわれは、われわれ皆を守るのである」厳しい状況を述べました。

PCR 検査は、昨日 1,770 件行われましたが、隔離センターの他に 880 件は、キューバがこれまで推進してきたバイオテクノロジーの研究機関である、ペドロ・コウリ熱帯医療研究所で 221 件、ハバナ市バイオ分子研究所で 221 件、ビジャクララの諸研究所で 210、サンティアゴ・デ・クーバの諸研究所で 183 件、遺伝・バイオテクノロジーセンター (CIGB) で 93 件、民間防衛研究所で 86 件、エルマーノス・アメイヘイラス病院で 94 件と、分散して行われました。

ウイルス対策の第 8 弾発表

また、この日、ウイルス対策の第8弾として、キューバ文化省は、次の措置を発表しました。

- 大規模の文化的集会を延期する。音楽センターなど密集場所を閉鎖する。図書館、博物館、ギャラリーも活動停止する。
- キューバ音楽庁 (ICM)、国立演劇委員会 (CNAE) の所属アーティストへの賃金、商業制度のもとで運営されている補助金支給芸術団体の所属アーティストへの賃金を補償する。
- 補助金を得ている芸術家は、一機関のみの賃金補助を受ける。
- 商業活動を行っている芸術家は、補助金支援を受け取っているアーティストの賃金表を援用して賃金を受け取る。それは最初の1カ月は100%、2カ月以降は60%とする

これで、市民活動のすべての分野の対策が出されたこととなります。

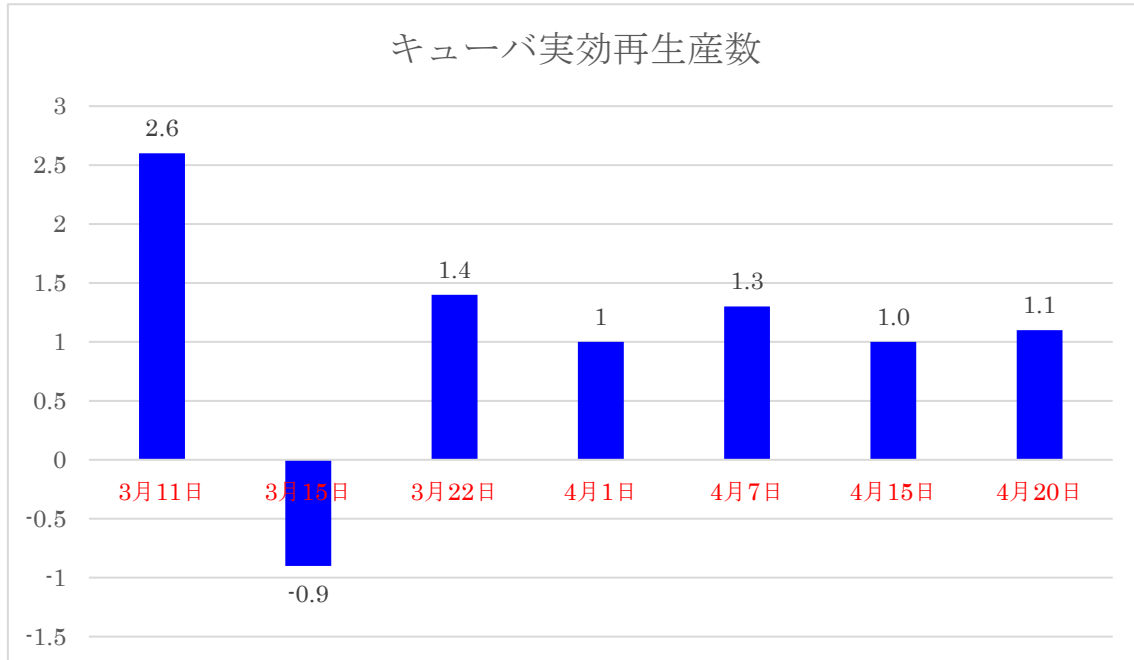
翌19日、ホンジュラスにキューバの医療団20人が派遣されました。現在のホンジュラスは、保守派の国民党のエルナンデスの治世下にあります。また同日中東のカタールにヘンリー・リーブス医師団200人余が出発しました。すでに500人のキューバ人医師団が20カ国で治療を行っています。国内では、自宅待機者が増えて電力消費が増えることから、困難な石油事情を考慮して、停電を避けるため、節電が訴えられました。

翌20日、新たな感染者は50人と高い水準で発生しましたが、問題は、サンタ・クララの老人ホームで57人（高齢者43人、勤務員14人）のクラスター感染が発生したことです。感染の原因は、勤務員数名、看護師2人、医師1人、警備員1人が、病気の兆候があるして治療センターに行き（禁止されている行為）感染し、拡大したものです。ディアス＝カネル大統領は、医療関係者への対策を緊急に取るように強い指示を発しました。ハバナ市の産婦人科病院の医師1人、看護婦1人がPCR検査の結果、陽性と判明。医師・看護婦とも隔離措置が取られ、家族は経過観察が取られましたが、院内感染の危険が生じました。一方では、治療センターでのテスト器材不足も提起されるようになりました。この日、実効再生産数は、1.1に上昇しました（グラフ5参照）。

21日も新たな感染者が52人と高水準で発生し（陽性率3.7）、9人感染経路不明者が9人、無症状感染者が33人（63.4%）という芳しくない数字が続きました。この日、ラテンアメリカ・カリブ海経済委員会（CEPAL）は、地域の2020年度の経済成長の見通しを発表しました（CEPAL, Dimensionar los efectos del COVID-19 para pensar en la reactivación）。ラテンアメリカ・カリブ海全体ではマイナス5.3%、アルゼンチン-6.5%、ブラジル-5.2%、コロンビア-2.6%、メキシコ-6.5%、ベネズエラ-18%ですが、キューバはマイナス3.7%でした。観光輸入の激減、医療サービス輸出の減少によるものです。キューバ人エコノミスト達は、この程度で収まらず、経済成長は、マイナス5~6%以上になるという予測が多く見られます。理由は、毎月1億4,000万ドルの観光からの収入が激減すること、30数億ドルと推定される海外からの家族送金が20~30%減少すること、コロナ渦で外国投資が急激すること、海外からの物資の

輸入がコロナによる供給者側の減少とキューバ側の外貨不足により減少すること、そのことにより国内の生産が減少すること、自営業が沈滞していることなどです。

(グラフ 5 実効再生産数)



出所：キューバ MINSAP 発表数より筆者作成

キューバ、治療薬の開発に懸命の努力

コロナウイルス対策を進める中で、キューバ政府は、治療薬の開発に懸命の努力を払っており、キューバの感染治療の手引きに、インターフェロン Alfa 2b、Biomodulina T、CIGB 2020、CIGB 258 などの 22 治療薬の治験が入っており、いずれも有望な成果を示していると報告されています (Granma 20.04.14)。CIGB2020 は、抵抗力を強化するもので、フィンレイ研究所で開発されたものです。特に、Biomodulina-t は、植物性免疫増強剤として 2008 年より全国のすべての老人ホームで使用されており、集団感染を起こしたサンタ・クララの第 3 老人ホームでは Biomodulina-t と共に鼻腔インターフェロン Alfa 2b が使用されています。これらの治療薬により、クラスター感染が発生したが、その後状況は安定しました。患者に対する単一クローン抗体 Anti CD6AcM 及びペプチドの CIGB 258 も使用され、有効な結果を示しています。Anti CD6 は、77 人の患者にテストし、57%が退院。重篤から脱出は 85%。CIGB 258 は、31 人の患者にテストし、42%が退院、重篤からの脱出は 80.6%。この両方とも COVID-19 の治療



に有望と報告されています。回復期患者の血漿を投与するという古典的な治療法である回復期血漿法も行われています。回復期血漿を用いた治療は、感染症から回復した患者に血液を提供してもらい、患者の血漿に病原体への感染や増殖を防ぐ中和抗体があることを確認した上で、患者に投与するというもの。キューバは、アフリカの Ebola 熱の治療の際に **回復期血漿を投与されている患者**



使用し効果がありました。政府は、自宅での生活を支援するために、17 箇所のネットショップ CIMEX と 1 箇所のネットショップカリベを開きましたが、初めてのことで、多くの苦情、不満が寄せられました。理由は、手続きの時間がかかりすぎたり、注文途中でネットの遮断などです。政府は、また食料品などの自宅配達を、キューバ郵便、Transcimex で開始しましたが、これも経験不足から、72 時間以内の配達が行えないことが多く、まったく満足すべき状態にはないと報告されています。政府はまた、電気、水道、ガス、ネット料金の 5 月支払いを延期すると発表。一方、市民のマスクの不着用、私的なパーティなどの非規律は減少しました。政府は、21 日までに違法な経済活動 28 件、買い占め 289 件のなどを検挙しました。コロナ期間中に買い物の行列順番券を販売するものを当局は厳しく取り締まっています。

政府は、国外で喧伝されているキューバの刑務所にコロナ感染の兆候見られないと発表しました。キューバ航空は、運航停止を 5 月 31 日まで延期しました。

22 日には新たな感染者 46 人発生、累計 1,235 人とり、死亡者が 3 人、ピナル・デル・リオ県のラ・セイバ地区では第 2 回目の集団感染発生し、隔離地域を指定。8 時以降夜間外出禁止令発令されました。

23 日には新たな感染者が 50 人が発生、累計 1,285 人となり、死亡者 6 人が発生しました。ディアス＝カネル大統領は、「この 8 日間、毎日複数の死亡者が出たのは心が痛むことである。従って、感染のごく初期から患者を看護しなければならない」と強調しました。24 日には新たな



隔離地区は、テープが張られています
な感染者 52 人発生、累計 1,337 人となり。死亡者 2 人、感染経路不明 28 人で不安な状況が続きました。

米務省、キューバの医療使節団の目的を酷評

こうした状況の中で、キューバ政府は、医療治療団として、21 日保守的な政権のペルーに医師団 40 人を、22 日アフリカのカボベルデに 20 人、25 日メキシコに 140 人派遣し、派遣先国は 24 カ国となりました。ところが 24 日、米務省は、「キューバ医療使節団の真実」というパンフレットを発行し、同パンフレット発行の記者会見で、マイケル・コザック米務省西半球局次官補代行は、「キューバ政府は、パンデミック COVID-19 を利用して引き続きキューバの医療労働者を搾取している。したがって、われわれは、引き続き、これまでになく医師を擁護するために、キューバの医療関係従事者の側に立ち、彼らの搾取と乱用に反対しなければならない」とキューバの医療活動を非難しました。



そのパンフでは、「キューバ政府が、医療使節団の美名のもとに医療関係者を派遣しているが、それは人権と国際的に認められた労働条件に違反するものである。キューバ人医師は、政府の圧力のもとに政府の政治活動の手先となり、ベネズエラでは、マドゥーロに投票しなければ診療しない。ボリビアの暴力的な提案を推進した。マドゥーロ政権の経済的・社会状況について虚偽の有利な情報を流している。キューバ政府は、派遣先国から受け取る報酬の 75%から 90%を政府の取り分としている。契約国は、医師に直接報酬を支払うべきである。キューバの低賃金医師により、派遣地域の医師・看護師の失業を招いている」と一面的に非難されています。しかし、派遣先国とキューバの契約は、それぞれ主権をもった 2 カ国が自由に合意した主権行為です。第三者の米国が批判するのは、2 カ国に対する侮辱です。また、キューバが受け取る報酬については、詳細は発表されていませんが、2014 年のブラジル政府との契約、医師一人一日 145 ドルが参考になります。しかし、国際的な水準では一日 1,000 ドル以上が相場といわれています。キューバ側が大きく協力しているのです。また、キューバ人医師・看護師については、一カ月 200 ドル程度キューバ国内で支払われ、外国滞在期間中のキューバ国内賃金も支払われます。ほとんどの派遣キューバ人医師・看護師はこの条件を不満とは思っていません。

キューバ政府は、4 月 30 日に国務省が発行した「キューバの医療施設の真相」に言及して、「恥ずべきウソ」と述べ、「キューバは、医師を搾取してはいない。キューバ政府はキューバ人医師が外国で医療活動を行っている間、国内の賃金を全額支払っている。外国での医療活動は、各個人の同意のもとに自主的に参加している。二国間の合意による支払いの一部はキューバの国家予算に向けられている」と、反論しました

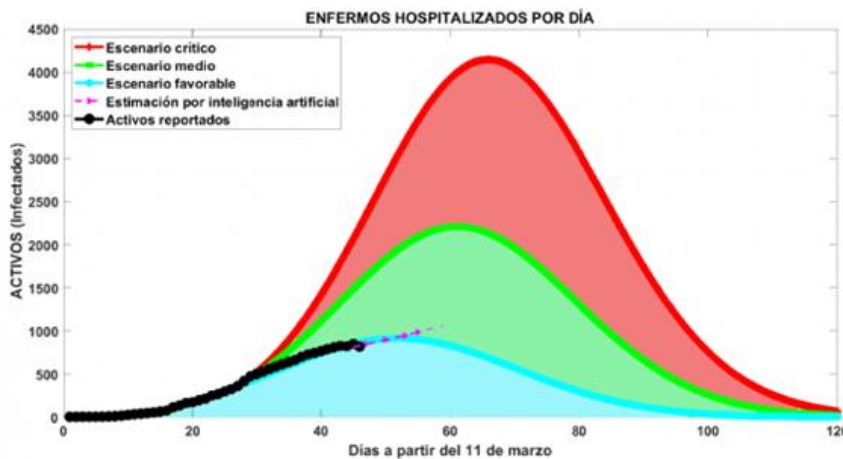
キューバ政府は、4 月 30 日に国務省が発行した「キューバの医療施設の真相」に言及して、「恥ずべきウソ」と述べ、「キューバは、医師を搾取してはいない。キューバ政府はキューバ人医師が外国で医療活動を行っている間、国内の賃金を全額支払っている。外国での医療活動は、各個人の同意のもとに自主的に参加している。二国間の合意による支払いの一部はキューバの国家予算に向けられている」と、反論しました

数理分析では、感染速度や改善

25日には新たな感染者32人、死亡者3人が発生、革命軍もハバナ市中の消毒作業に参加し、居住区の住民と一緒に消毒作業に当たりました。26日には新たな感染者20人発生、死亡者2人と、新規感染者発生件数も死亡者数も減少傾向が続きましたが、ラウル・ギノバル・ディアス、ハバナ大学数学・コンピューター学部長は、数理経済学を駆使して、キューバにおいて実効再生産数（ R_0 ）は1をわずかに超えている*、しかし、感染経路不明者数、無症状感染者が増えており、不安を与えている。このままでは、来週（4月27日以降）、感染のピークに達すると予測しました。



*コロナの伝播速度を知るためには、基本再生産数（WTO は、今回のコロナ基本再生産数 1.4~2.5 と見ている）と、実効再生産数の両方を知る必要があります。今年3月下旬の東京都の実効再生産数は1.7といわれています。キューバでのコロナ感染開始時は、実効再生産数は、4.5人でしたが、その後対策が取られて3月16日頃は1を割りましたが、その後再び増加し実効再生産数1強となりました。その後サンタ・クララのクラスター感染（4月20日サンタ・クララの老人ホームで57人（高齢者43人、勤務員14人）が集団感染）の後少し上昇しましたが、しかし、その後制限措置が取られて、4月末には実効再生産数は1前後となりました（表5実効再生産数参照）。



ディアス教授は、4月8日のラウンドテーブルの会議で「第一のモデルでは、ピーク時4,500名の累積感染者が出る。ベッドの準備、医師の配備で大きな問題を招く。感染のピークは5月の最初の15日間に起きる」と推測していました。しかし、ディアス教授は、「その後政府が、前倒しで取った措置でカーブは、好ましい方向に移動した。このカーブから政府はベッド数、人工呼吸器、必要な人員を準備できるようになった。現在の状況では、5月の最初の15日間累積感染者数は1,500~2,500人となろう。しかし、今後の状況からは変わりうる。今

週は極めて困難な週にある。180カ国の国際基準では、ピークは77日目にやってくる。これはキューバに直すと5月の20日頃。しかし、最近のキューバの状況では、ピークは小さく、もっと早くやってくる見込みである。恐らくは来週(4月27日以降)ピークに達するであろう」と推測しました。

最初の院内感染発生、しかし陽性率は改善に向かう

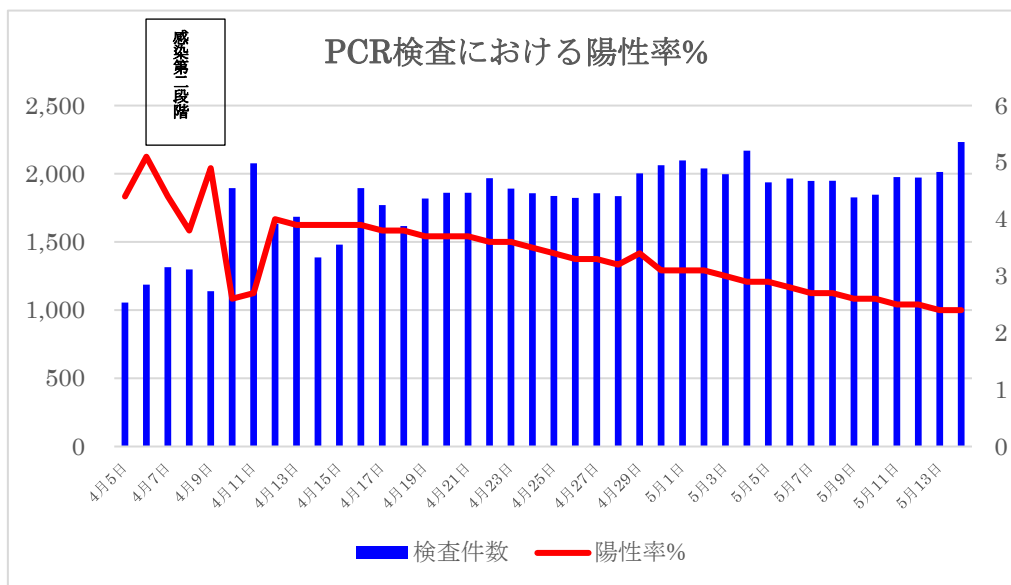
27日には、新たな感染者48人、死亡者2人、感染経路不明15人、無症状感染者28人が発生しました。感染者の中には、マタンサスのカルデナス病院で医師3人、看護師3人、患者1人が感染し、カルデナス病院は隔離されました。また、同病院で53歳の男性がコロナウイルスで死亡しました。キューバで初めての院内感染でした。MINSAPは、キューバにおいては、コロナウイルス回復者の再発生は未だ出ていないと発表しました。



28日には、新たな感染者30人、感染経路不明数が7人発生しましたが、ディアス教授が心配していた感染経路不明数が、減少し始めました(グラフ4発生感染者数、感染経路不明者数参照)。29日には、新たな感染者34人、死亡者3人、陽性率3.2%でした。しかし、陽性率は、4月6日最高値5.1を記録しましたが、この日以降順調に2%近くまで下がっていきます(グラフ6PCR検査における陽性率参照)。

陽性率は、千葉大学の研究によると、アジアの国々でも陽性率が7%以上の多くの国では感染者の増加が続いていると報告されています(千葉大学ニュースリリース2020年4月21日)。キューバの事実もこの仮説を裏付けています。ディアス=カネル大統領は、「結果が前倒しに出ているが、結果に満足してはならない」と警告し、ディアス学部長も、「3つの想定モデルの中で最も好ましいモデルで推移しているが、5月には引き続き感染者が発生する。現在の努力を緩めてはならない。これは、学校の閉鎖、国境の閉鎖、国内交通の停止は、大きく貢献している。ここ数日の制限を維持すれば、数千人の感染者を防ぐことができる」警鐘をならしました。ドゥラン博士は、「高温多湿下でのコロナウイルスは、感染力が低下すると国際的にいわれているが、キューバ気象庁の研究ではその証明が見られない」楽観視を戒めました。

(グラフ6 PCR検査における陽性率)



註：左軸；当日 PCR 検査回数 右軸；陽性率 出所：キューバ MINSAP 発表数より筆者作成

	検査件数	陽性率%
4月5日	1,056	4.4
4月6日	1,187	5.1
4月7日	1,315	4.4
4月8日	1,298	3.8
4月9日	1,139	4.9
4月10日	1,895	2.6
4月11日	2,076	2.7
4月12日	1,634	4.0
4月13日	1,684	3.9
4月14日	1,386	3.9
4月15日	1,480	3.9
4月16日	1,895	3.9
4月17日	1,770	3.8
4月18日	1,616	3.8
4月19日	1,818	3.7
4月20日	1,860	3.7
4月21日	1,860	3.7
4月22日	1,967	3.6
4月23日	1,891	3.6
4月24日	1,857	3.5
4月25日	1,837	3.4
4月26日	1,823	3.3
4月27日	1,857	3.3
4月28日	1,836	3.2
4月29日	2,003	3.4
4月30日	2,062	3.1
5月1日	2,097	3.1
5月2日	2,039	3.1
5月3日	1,997	3.0
5月4日	2,169	2.9
5月5日	1,937	2.9
5月6日	1,965	2.8
5月7日	1,947	2.7
5月8日	1,949	2.7
5月9日	1,826	2.6
5月10日	1,847	2.6
5月11日	1,975	2.5
5月12日	1,972	2.5
5月13日	2,013	2.4
5月14日	2,232	2.4

在米キューバ大使館テロ攻撃に会う

30日、新たな感染者36人、死亡者3人が発生しました。当局により、コロナ感染中の社会規律を維持するため、違法行為を行った500人以上の市民が処罰されるとともに、モノ不足により、ハバナ市では洗濯洗剤を買うために4ブロック以上の長蛇の行列が見られました。ところが、キューバが懸命にコロナ対策に取り組んでいるこの日の、午前2時、ワシントンのキューバ大使館が自動小銃AK-47により30発以上の銃撃を受けました。現場には10人ほどのキ



ューバ人外交官と大使館職員がいましたが、幸い人的損害はありませんでした。犯人は、2010年に米国に亡命したキューバ人アラソ・バロ42歳。アラソ・バロは、2003年にキリスト教の宗教活動でメキシコに移住しましたが、それまでのキューバでの行動は、普通の行状で、特に反政府活動を行ってはいませんでした。しかし、2010年米国亡命して以降、マイアミの宗教右派のドーラル・ジー

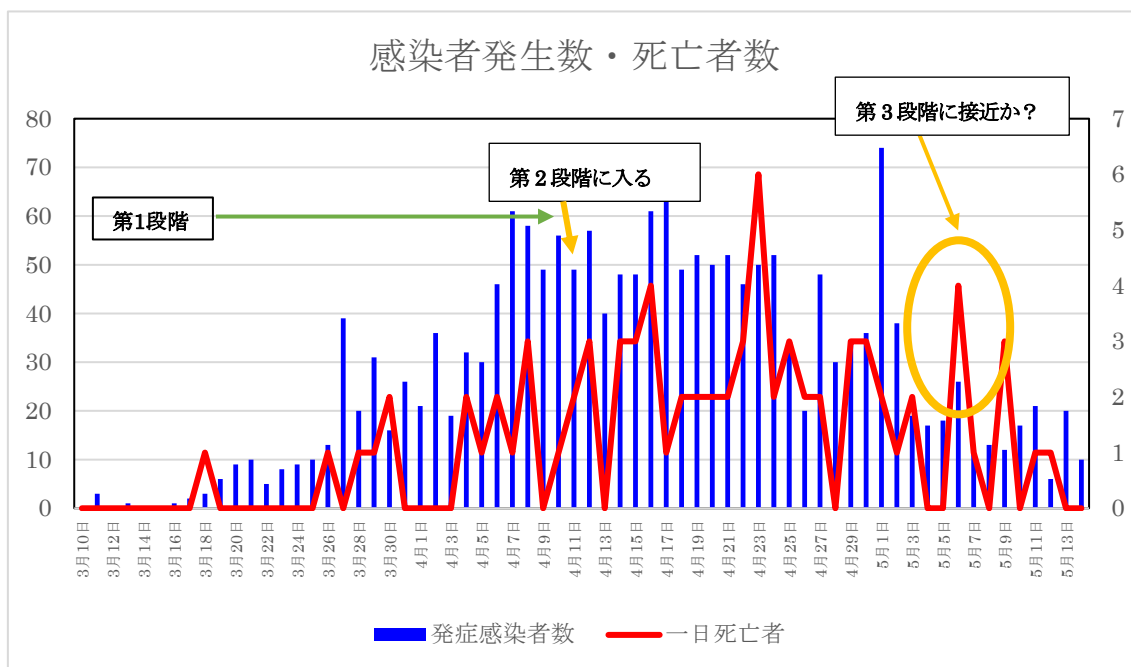
ガス活動センターと関係を持つようになりました。同センターは、ペンス副大統領とも密接な関係を持っており、アラソ・バロは、同センターのフランク・ロペス牧師を通じて反キューバの過激派人物のマルコ・ルビオ共和党上院議員とも関係ができました。キューバのブルーノ・ロドリゲス外相は、すぐさま抗議の声明を発表しましたが、5月11日現在、米務省、米国政府のいずれも、事件を糾弾する正式な声明を発表してはいません。大使館の安全はウィーン条約で厳格に保障されていますが、こうした米国政府の態度には、コロナ感染問題が進行中、米務省が連日キューバの医療団派遣を批判し、中傷してきた態度がその裏にあるものと思われる。

深刻な集団感染相次ぐ

5月1日、新たな感染者が、これまでに最高の74人に達しました（グラフ7感染者発生数・死亡者数参照）。新感染者の大多数は、ハバナ市コトロ地区のハバナ市社会擁護センター「グアシマ」で起きた58人のクラスター感染でした。これまでのキューバでの最大のクラスター感染です。クラスター感染は、新たな様態をとるようになりました。同時に社会的弱者の擁護センターの集団感染だけに衝撃的な事件でもありました。4月20日のサンタ・クララの老人ホームでの57人（高齢者43人、勤務員14人）集団感染も同じような状態から起きたものでした。



(グラフ 7 感染者発生数・死亡者数)



註：左軸；発生感染者数

右軸；死亡者数

出所：キューバ公共保健省発表の資料から、筆者作成

政府は、「政府が進めている、コロナ感染の中で、遠距離勤務を避けるための労働者の配転では、129,620 人が就業休止だが、そのうち 29%しか配転されておらず、配転しないもの 87,486 人が賃金を受け取っている。5,101 人は不当にも配転を承諾せず、賃金を受け取っていない」という配転問題の困難な状況が報告されました。ドゥラン博士は、記者会見で、記者の質問に答えて「キューバでは150人余の幼児が感染しているが、川崎病は見られない。米食品医薬品局（FDA）は、新型コロナウイルス治療に抗ウイルス薬「レムデシビル」の緊急使用を許可した。米ギリアド・サイエンシズのレムデシビルは、エボラ出血熱の治療用に開発されたもの。キューバでは、肝臓機能の低下などへの副作用があるので、今少し治験が必要と判断している。経済封鎖の問題もあり、レムデシビルは、キューバでは治療薬の手引きには含まれていない」と回答しました。

5月2日、新たな感染者38人発生しましたが、ハバナ市のサンミゲルパドロン地区で、宗教活動を行っていた10人のクラスター感染が発生しました。キューバでは、感染容疑者として隔離されている患者の感染の症状の開始後3日後にPCR検査を行うのが基準であるとドゥラン博士は、説明。翌3日には、新たな感染者19人が発生しました。困難なコロナ対策が続く中で、閣僚評議会開催され、2020年度の経済計画、予算案を修正しました。ヒル経済・企画相は、「観光、空港、港湾サービス、領事収入などの収入計画が減少し経費の削減に努めな

なければならない。全ての経済活動が影響を受け、修正を余儀なくされる。計画の中断や、速度の減速を行わなければならない。輸入資材を食料生産に優先して充てる。食料と衛生用品を統制し、価格の値上りを防ぐ」と経済困難を説明しました。また、ヒル経済・企画相は、「2021年の経済計画の作成も困難があるが、計画の作成は必要。空白があってはならず、いくつかの来年度の指標を作成しているところ。それは今年の計画の継続。つまり輸出の強化、消費物資の国産化の



社会的距離を取っている閣僚評議会

強化、砂糖生産の増産、国営部門と民間部門のサプライチェーンの強化、外国投資の推進」と基本方針を提起しました。この会議で、ディアス＝カネル大統領は、「新自由主義は、国家を最小限にした後で、再び国家を呼びだし始めている」と、コロナ下において新自由主義の真実が暴露されていることを指摘しました。政府からは、2020年度の経済成長の予測は出されていませんが、あるキューバ人エコノミストは、2020年は、キューバ経済は、GDPで6%程度後退すると予測しています。

感染の第3段階に備えて準備

4日、新たな感染者17人が発生、累計1,685人となりました。

キューバの感染問題専門家は、現状を次のように分析を報告しました。

「コロナウイルスの感染を分析して、キューバは、依然として限定的な地域感染、すなわち第2段階にある。これまでの集団感染は住民あるいは施設の小密集から起きている。例えば4月20日のサンタ・クララの老人ホーム、5月1日のコトロの社会擁護センター、5月2日のサン・ミゲル・デル・パドロンの家族間10人感染*。

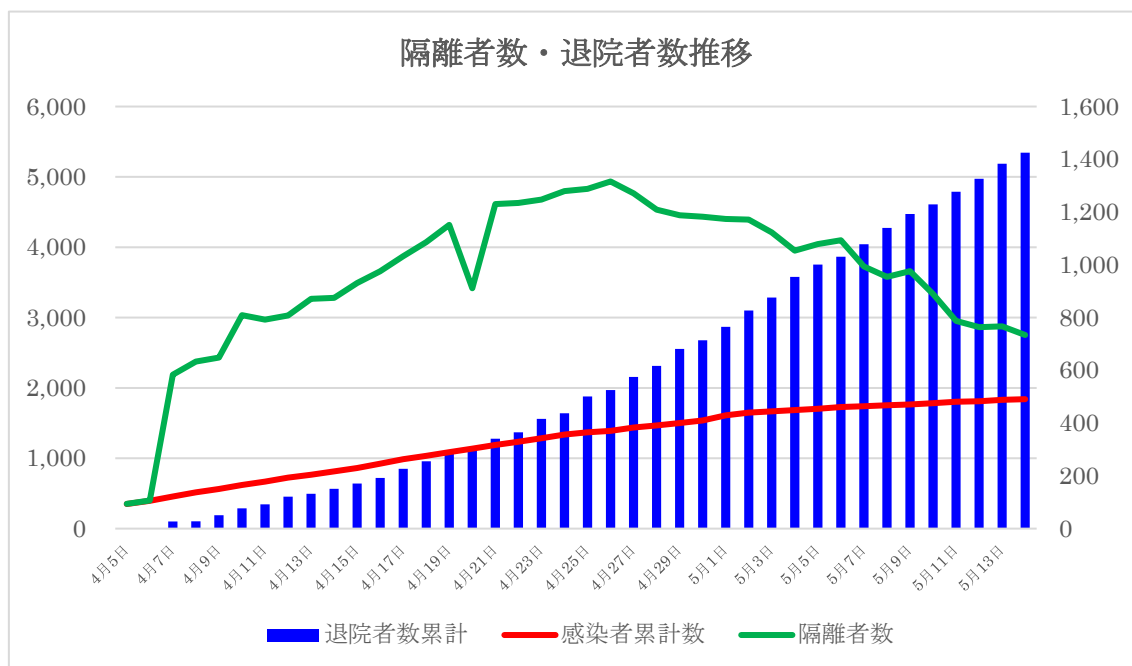
*5月13日までに集団（クラスター）感染は44件あった。しかし、現在は24件が収束。20件が継続中である。1件ピナールデルリオ、10件ハバナ、1件マヤベケ、1件マタンサス、3件ビジャクララ、1件サンクティ・スピリトゥス、4件シエゴデアビラ、1件カマグエイ、4件オルギン、2件サンティアゴ・デ・クーバ、1件グアンタナモ、2件青年の島とほぼ全国に渡っている。

これまで400の措置が取られ、感染爆発、医療崩壊、都市封鎖には至っていない。危機的、重篤患者が12人、15人といたが、それが、最近減少している」。

しかし、政府は、キューバが感染の第3段階（流行病）に入ることを考え、この能力の増大を図っていると報告されました。コロナウイルス患者治療施設は、全国で20の病院（そのうち

6 つが軍関係病院)、54 の感染疑惑患者センター、248 の濃厚接触者センター、40 の外国人用センターで、全体で 5,000 ベッドが準備されており、そのうち 472 ベッドが集中治療用です。この日、隔離者は 2,267 人 (うち感染容疑者 1,534 人) でしたから、ベッドは 50% 近くの余裕があることとなります (グラフ 8 隔離者数・退院者数推移参照)。また 3 人危機的、5 人重篤で集中治療者は 8 名でしたから、集中治療室もひっ迫した状況にはありません。退院者は、隔離施設で 14 日間療養し、PCR 検査で陰性の場合、退院し、自宅で 15 日間ファミリー・ドクターの指示のもとに自粛生活し監察、その後 PCR 検査をし、陰性ならば通常生活にもどります。

(グラフ 8 隔離者数・退院者数推移)



註：左軸；感染者累計数、隔離者数

右軸；退院者数

出所：キューバ MINSAP 発表数より筆者作成

パンデミックの中での国際連帯と米国の干渉

この日 4 日、オンライン非同盟会議で、ディアス＝カネル大統領は、「国際社会では依然として連帯の関係が築かれていない。今日、連帯がグローバル化されていないことから、重大な社会的格差を是正することができないという代償を払っているのだ。これは、現在のことを述べているだけでなく、未来についてもいえることだ。そこでは、気候変動と結びついた別の災害に直面するであろうし、各国の間の相互関係は、特別に重要なものとなるであろう」

と、コロナ対策や気候変動問題について、国際連帯の重要性を強調しました。

キューバ政府は、その後、4月29日にカタールに229人の医師団を、5月2日12人の医師団（初めての女性のみの医師団）をトリニダード・トバゴに派遣し、5月15日現在25カ国に2,041人のコロナ治療医師団を派遣しています。このうち1,006(43%)人は、危険地帯で活動しており、残りは隔離室、治療室などの最前線で活動しています。地域ごとの内訳は、ラテンアメリカで601人、カリブ海地域で615人、アフリカで467人、ヨーロッパ・中東で358人です。この数カ月で恐らく5,000万ドル以上の外貨収入となり、逼迫した外貨事情にとって救いとなるものと思われます。なお、現在59カ国で28,000人の医療関係者がコロナ対策以外に医療サービスに従事しています。



カタールに到着したキューバ人医師団

ところが、6日、キューバの国際的医療活動が、キューバの外貨収入になるとして、快く思わない米国財務省対外資産管理事務所（OFAC）は、米国の農業企業 BIOMIN アメリカ社に対し、キューバに食料を販売した罪で257,862ドルの罰金を科しました。これは同社が、2012年7月から2017年9月にかけて30回にわたり、OFACの許可なくキューバのAlfarma S.A社に農産物を販売しており、キューバ資産管理規則に40回違反したという罪です。この時期に過去の「規則違反」（キューバへの食料の販売はヘルムズ＝バートン法でも認められています）にOFACが罰金を科したのは、困窮したキューバ経済を一層締め上げるための見せしめの要素が感じられます。さらに13日トランプ政権は、キューバをテロ支援国家リストに加えしました。しかし、これは、オバマ政権との国交正常化交渉の中で、2015年5月オバマ政権により削除されたものです。その後キューバがテロ組織を支援した事実はありませんし、経済困難とコロナウイルスと闘うキューバに否定的なイメージを植え付けようとする不当な政策です。このように、キューバがコロナウイルス対策に集中して取り組んでいる最中に、トランプ政権は、貿易面（キューバへの医薬品、食料品販売の禁止）、国際政治面（麻薬取引、テロ支援国家）、国際協力面（医療団への中傷）など、執拗な攻撃が目立っています。

ポストウイルスの経済政策を検討

5日には新たな感染者18人、感染経路不明者3人発生しました。この日から感染経路不明者数がかかなり減っていきます（グラフ4発生感染者数、感染経路不明者数参照）。政府の感染経路の解明がかかなりコントロールされている感じですが、8日には新たな感染者13人、退院62人が発生しました。退院者数が、新感染者数を上回ったのは、7日連続で、ドゥラン博士は

「隔離者数が減少している傾向がある。これは好ましい想定モデルを上回る改善である」と述べました（グラフ 8 隔離者数・退院者数推移参照）。

この日、感染状況が改善してきましたので、閣僚評議会は、現在考えられる、ポストウイルス後の経済戦略の作成を指示しました。ディアス＝カネル大統領は、「世界の現状と対峙するだけでなくキューバの経済・社会モデルの改革を継続し、また生命を救うとともにキュー



バ経済の発展を図るという、これまでになかった課題と挑戦である」と規定しました。ヒル経済・企画相は、そのためには、「本年の経済計画を調整し、2021年の計画の作成を始めると同時に、並行して2030年までの全国経済・社会発展計画も検討する。それは、2段階で行う。まずコロナ後の経済活動の回復、第二に国民経済を強化する。その主要な原則は、中央指令型、

ヒル経済・企画相計画

市場の規制、経済の諸要素の補完関係の強化、国内の需要を推進役とする、経営と所有形態についてこれまでに承認されている鍵となっている政策の導入、国営企業および私企業の再構築、両者の関係の改善である。工程表を作り、実施日を記入する」と述べました。

9日には新たな感染者12人発生、10日には新たな感染者17人発生、ドゥラン博士は、「数字上では回復してきているが（グラフ3発生感染者数、死亡者数、感染経路不明者数参照）、今週は重要な週である。ドイツ、武漢などでも再発生している。キューバは規制を緩めない」と、規制を維持することを表明しました。この日から、キューバは、超マイクロ分析システム(SUMA)とPCR検査を併用すると発表しました。SUMAは、キューバが開発した抗体検査方法です。

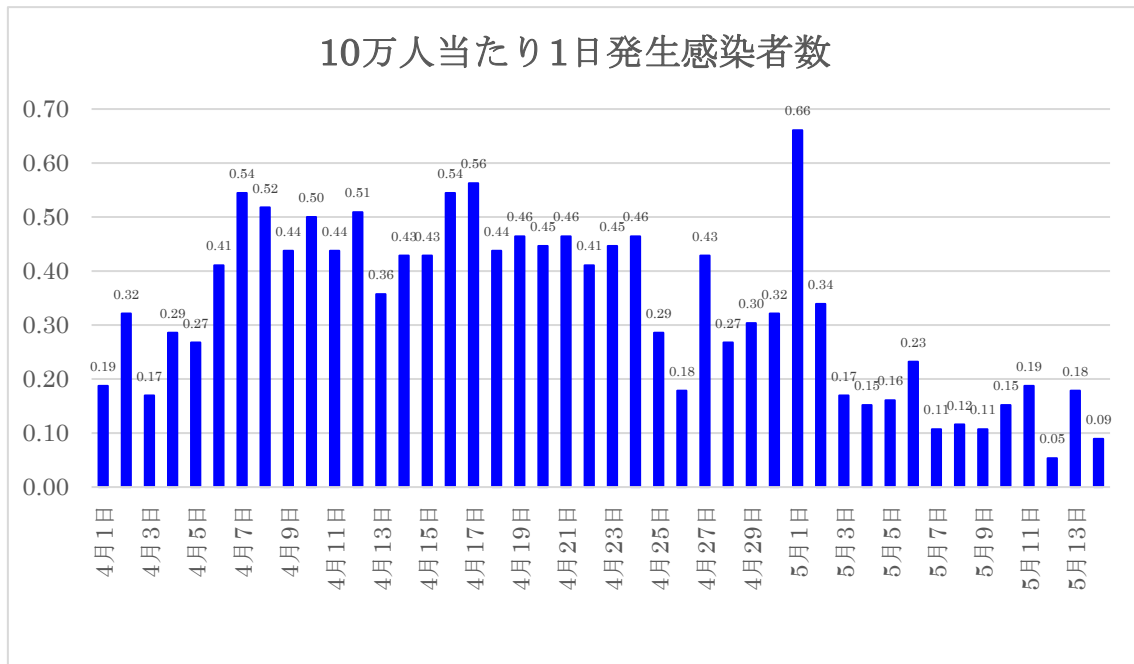
11日には、新たな感染者21人発生、12日には、新たな感染者6人発生、13日には、新たな感染者20人発生、14日には、新たな感染者10人発生と、感染はかなり弱まっています。この日キューバの公共保健省は、「COVID-9対策の全国的活動の手引き第1.4版」を公刊しました。この手引書には、132ページにわたり、各段階の診察の方法から陽性者の遺体の取り扱い方法まで詳細に説明してあります。14日現在での諸データは、ほぼ50%が無症状感染者で、感染者は男性が多く52%、重篤者の68.9%は60歳以上。24.5%が40～60歳。死亡者の82.6%は60歳以上。39.1%は80歳以上です。5月14



日現在、感染者数累計1,840人、死亡者累計は79人、人口10万人当たり感染者数は5月7日

以降0.2人を維持しています（グラフ9 10万人当たり1日発生感染者数参照）、致死率は4.3%、陽性率は、5月4日以降3%を切り、2%近くになっています。この日米州で、感染者累計1,889,851人、死亡者累計113,827人、致死率6.02%です。懸念されるのは、モノ不足の現状から、買い物にどうしても行列ができ、十分社会的ディスタンスが守られていないことです。ドゥラン博士は「はっきりしている手段は、社会的ディスタンスを維持すること、家にいること、マスクを着用すること、手を良く洗うことである」と繰り返しています。

（グラフ9 10万人当たり1日発生感染者数）



出所：キューバ公共保健省発表の資料から、筆者作成

15日、無症状感染者が50%近くに達する現状から、キューバ政府は、これまでの隔離政策は間違っていなかったことを再確認し、国民全員のPCR検査を実施することを決めるとともに、当分の間海外からの観光入国を認めない措置を継続すると発表しました。

（2020年5月15日 新藤通弘）